

教 育 行 政

昨年末に行われた第46回衆議院議員総選挙では、自由民主党の圧勝となり、政治主導を揚げた民主党政権の幕が下りた。この解散総選挙に向け、各政党とも政権公約（マニフェスト）の中で、大きく教育問題を取り上げ、学力向上や規範意識の醸成に加え、教育委員会制度の改革を唱えたのが特徴的だった。自由民主党も、教育再生として、教育委員会制度の抜本改革を行うことを言及している。

こうした中、平成25年度の本市教育行政は、「第2次伊丹市教育ビジョン事業実施計画」の最終年度であり、その達成に向けさらに事業を推進する。また、学校園、教育委員会及び教育委員会事務局がそれぞれの役割と責任を再認識し、教育委員会制度の趣旨を十分生かした教育行政を展開することで市民ニーズに応えていく。

1 教育行政推進体制の整備

「伊丹の教育＜重点目標編＞」（プラン）と「伊丹の教育＜成果報告編＞」（チェック）による教育施策の進行管理を行うとともに、その内容については市議会への報告及び広く市民に公表することで説明責任を果たす。また、教育新聞「教育いたみ」や教育広報「すくすくぐんぐん伊丹っ子」、ホームページ等あらゆる機会を通じ効果的かつきめ細かく教育情報を発信していく。

教職員の人事管理については、大量退職等に伴う臨時講師増員等の諸課題を踏まえ、新規採用教職員の増員、人事交流の推進により、積極的な人材確保に努めるとともに、各校の組織マネジメント強化に向けて、主幹教諭を全校配置し機能的な活用を進める。人事異動にあたっては、教育改革を推進させ魅力ある学校園づくりを進めるため、「我が校園の教育ビジョン」の具現化に向けた人事配置に努める。また、教職員の服務規律の確保に努め、優秀教職員表彰制度により他の模範となる教職員を積極的に顕彰し、職務意欲の向上と本市教育の活性化を図る。

さらに、市教育委員会事務局と各学校園がともに業務改善を推進し、子どもと向き合う時間の確保に努めるとともに、プレ出勤や職場復帰トレーニング制度等、教職員のメンタルヘルス支援に係る制度を周知し活用することで、教職員の心の健康の保持増進に努める。

平成25年度の学校園施設の整備については、国の予備費及び補正予算等を活用し、耐震化が必要な幼稚園での耐震補強工事や吹付けアスベストの除去工事、施設の長寿命化・防災機能強化に資するための外壁改修・空調設備などの老朽対策に取り組むとともに、未整備となっている小中学校におけるトイレ改修工事や特に老朽化の激しいスチールプールの改築、グラウンドの表面排水不良・土壌劣化等の改善を行い、安全で快適な学校園施設の充実を図る。さらに、小学校体育館のうち、唯一フロアへの移動に階段を利用しなければならない伊丹小学校体育館棟にエレベーターを設置し、教育環境・避難所のバリアフリー化を図る。市立伊丹高等学校については、1号館の大

規模改修工事を実施し、ハード面において市高の活性化に向けた魅力ある学校づくりを行う。

また、CO₂削減・光熱水費の低減を図るとともに、児童生徒の環境教育教材として活用するため、3つの学校に太陽光発電設備を設置する。さらに学校園芝生化モデル事業を継続して実施し、体力面、環境面などその教育的効果等について引き続き検討・検証する。一方、小中学校の学習形態の多様化などに伴い必要となる教室の確保については、今後も児童生徒数の推移等を見据え、既存施設の有効利用・活用を基本に効率的に対応する。

学習教材設備のうち学校図書館図書の整備については、学校図書館図書標準の達成に向けて整備を進める。

2 教育行政における権限の委譲

各学校園の創意工夫を一層促進し、学校園の活性化と教育の質の向上のため、引き続き、学校園長による教育ビジョンを活用した人事配置や、学校園の特色ある取組に応じて予算配当を行うなど、教育活動の充実と学校目標の実現を支援する仕組みを検討し実施する。

3 今日的課題に対応した教育行政の推進

教育委員が学校訪問などを通じて積極的に教育現場の実態を把握するとともに、必要な意見具申を行い、それらの教育課題に応じた施策提言を行う。

また、平成25年度は、昨年度から再開した教育懇談会「教育委員と話そう」を残る校区で継続して実施し、「顔の見える動く教育委員会」を実践する。

このように教育委員会が学校・家庭・地域・関係機関と連携し活動することにより、教育委員会のさらなる活性化に取り組むとともに、市民ニーズに対応した教育行政を進める。